

1 事業の実績

(1) 業務概括

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	平成24年度	平成23年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域内人口 (人) A	286,665	284,236	2,429	0.9
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口 (人) B	266,632	264,198	2,434	0.9
普及率 (%) B/A	93.0	93.0	0	
給水能力 (m ³ /日)	133,600	133,600	0	0
導送配水管延長 (m)	1,252,911	1,247,590	5,321	0.4
職員数 (人)	86	95	9	9.5
総給水量 (m ³) C	27,013,097	28,630,788	1,617,691	5.7
有収水量 (m ³) D	25,058,184	26,612,709	1,554,525	5.8
有収率 (%) D/C	92.8	93.0	0.2	

給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口は、田主丸町(一部を除く)が区域に含まれた平成20年度をピークに、毎年度わずかずつ減少していたが、本年度は、そのピークを上回る数値を示した。一方、現在給水人口は、毎年度増加を続けており、本年度は、過去5か年で最も多い数値を示している。

給水区域内人口も現在給水人口も、その値は、住民基本台帳の数値を基にしており、これまで、外国人登録原票に登録されている外国人住民は、含まれていなかった。しかし、「住民基本台帳法の一部を改正する法律」(平成21年7月15日法律第77号)の施行により、平成24年7月に外国人登録法が廃止され、外国人住民が住民基本台帳に反映されたため、その分が増加したことによるものである。

普及率は、給水区域内人口より現在給水人口の増加がわずかに多かったが、前年度と同様93.0%である。

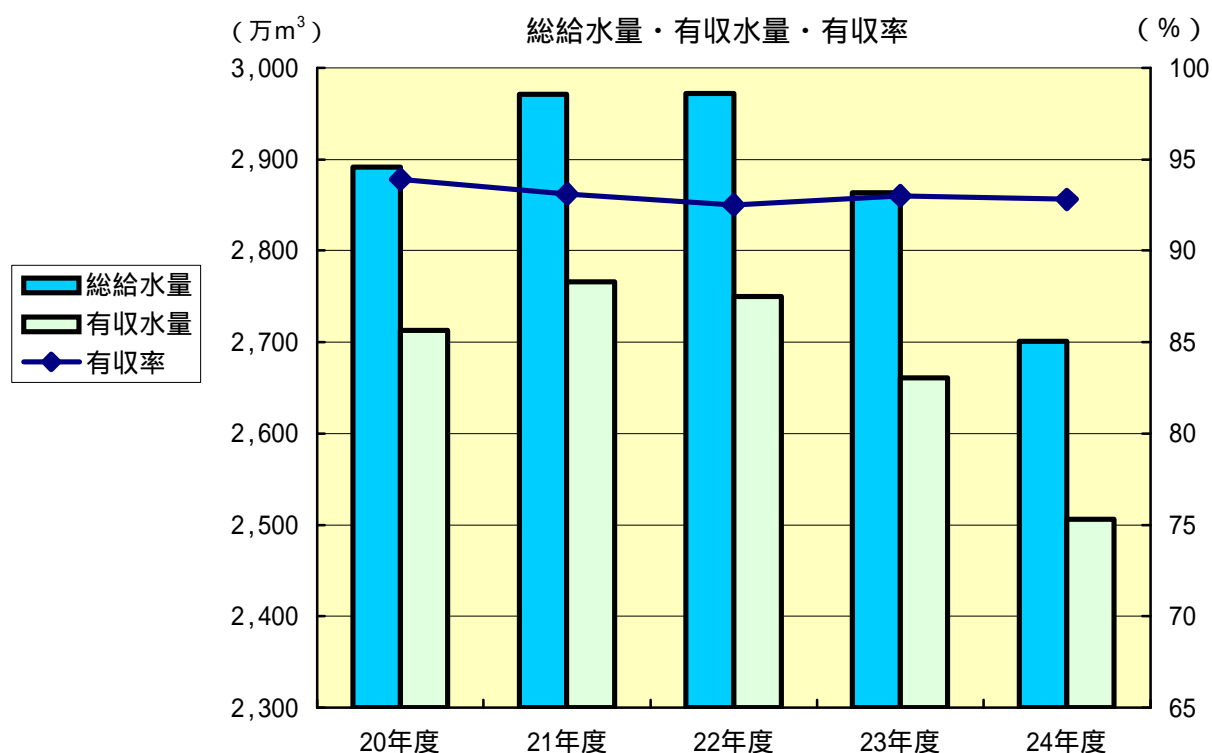
本年度の導送配水管延長の増加(5,321m)は、配水管の増加によるものである。口径別に見ると、口径75mmの配水管は281m減少したが、口径100mm以上と65mm未満の配水管が、合わせて5,602m増加している。

総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度と比較すると、1,617,691 m³の減少となっている。本年度も前年度に続き有効水量、無効水量ともに減少しているが、有効水量では、応援給水量の減少(1,477,935 m³)、無効水量では、不明水量の減少(146,520 m³)が特に大きい。応援給水量は前年度に比べ、皆減しているが、これは、協定に基づく応援給水が終了したことによるものである。

有収率は、平成20年度以降低下していたが、前年度では増加に転じた。しかし、本年度に再び低下し、0.2ポイント減の92.8%となっている。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



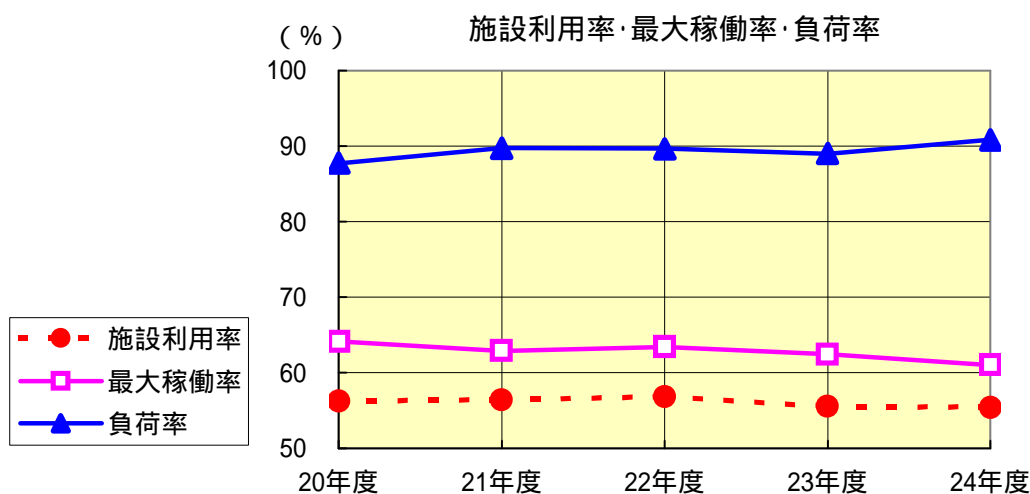
(単位：m³・%)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総給水量 A	28,908,104	29,712,310	29,719,439	28,630,788	27,013,097	
有効水量	有収水量 B	27,133,163	27,656,923	27,500,704	26,612,709	25,058,184
	無収水量	801,798	867,496	785,031	763,871	876,053
無効水量	無収水量	973,143	1,187,891	1,433,704	1,254,208	1,078,860
有収率 B/A	93.9	93.1	92.5	93.0	92.8	

(備考)平成20年度から23年度までの「総給水量」及び「有収水量」には、福岡県南広域水道企業団の安定供給を確保するための応援給水量を含む。(平成20年度1,506,721 m³、平成21年度2,186,745 m³、平成22年度2,004,281 m³、平成23年度1,477,935 m³)

(2) 水道施設の利用状況

水道施設の利用状況（施設利用率、最大稼働率及び負荷率）は、次表のとおりである。



(単位: m³・%)

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1日給水能力 A	133,600	133,600	133,600	133,600	133,600
1日平均給水量 B	75,072	75,413	75,932	74,188	74,008
1日最大給水量 C	85,608	84,041	84,718	83,320	81,472
施設利用率 B/A	56.2	56.4	56.8	55.5	55.4
最大稼働率 C/A	64.1	62.9	63.4	62.4	61.0
負 荷 率 B/C	87.7	89.7	89.6	89.0	90.8

(備考) 表の各数値は、総給水量から応援給水量を除いて算出している。

1日平均給水量は、平成22年度までは増加傾向にあったが、前年度に減少に転じ、本年度も対前年度比で0.2%減少している。

1日最大給水量は、平成20年度、21年度は減少傾向にあったが、22年度に増加に転じた。しかし、前年度には再び減少し、本年度も対前年度比で2.2%の減少となり、過去5か年では最も少ない数値を示した。

施設利用率は、平均的な施設の稼働状況を示す値であり、最大稼働率及び負荷率と併せて、施設の全般的な稼働状況を把握することで、施設の規模が適切であるかどうかを総合的に判断するものである。この値が高いほど、施設規模は適切であり、逆に低い場合は、施設が遊休化していると判断できる。

平成21年度から上昇に転じたものの前年度は下降し、本年度も0.1ポイントではあるが低下しており、この5か年で最も低くなっている。

最大稼働率は、1日供給量が最大のときの施設の利用度を示す指標であり、施設効率性の点からは高い方が良いが、100%に近すぎると安定供給の面から問題があるとされ

る。

平成22年度のみ増加したものの、前年度に続き本年度も低下しており、最大給水能力の余裕は39.0%となっている。

施設利用率も最大稼働率も低下傾向にあり、本市の水道施設は給水能力に相当の余裕がある状態といえる。

負荷率は、施設の効率性を判断する指標であり、1日平均給水量と1日最大給水量の差がなく、需要の変動が少ないほどこの率は高い値となる。

平成21年度までは上昇し、22年度以降下降に転じたものの、本年度は、1.8ポイントの上昇を示している。